

若者たちへ

2024.3.13

本日、3月13日は、中学校の卒業式である。校長式辞の原稿でも載せたいところだが、今回もノ一原稿のため、卒業文集の原稿を載せることにした。

皆さんは、三年後に十八歳、五年後に二十歳になります。きっと、中学時代を振り返ることがあるでしょう。皆さんの心の中に残っているのはどんなことでしょうか。友人との何気ない会話、好きな教科の授業、部活動での試合やコンクール、修学旅行、合唱コンクール、あるいは普段の日常生活、先生からいただいた言葉かもしれません。皆さんの中学時代は、自分の人生にどんな影響を及ぼしているのでしょうか。中学校生活で学んだこと、身につけたことは、生かされているのでしょうか。

皆さんが生きていく時代は、今までとは違うむずかしい時代となります。AIをはじめとした技術の驚異的な進歩、ますます緊張を伴った国際情勢、少子高齢化社会、そして人口減少と、今まで経験してこなかった新たな社会を皆さんは歩んでいかなければなりません。自分にできることは何か、自分は何をするべきなのか、このようなことを常に考えながら生きていかなければなりません。

自分は何になるのかということは、もちろん大事なことです。しかし、もっと重要なことがあります。自分はどう生きるかということです。皆さんが、じっくり考えながら、自分の人生を力強く歩むことが、すなわち世の中をよくすることにつながります。日本という国を豊かにすることになります。皆さんは、世の中を支えていく大事な大事な社会の一員なのです。

中学校で培ったことは、これからの時代を生きていくための土台となるものです。土台がなければ何もできません。皆さんが意識していなくても、皆さんの中学時代は、皆さんを支えているはずです。それが、中学校での三年間です。

これからの社会の行く末は、皆さん一人一人に委ねられています。悩み、苦しみ、辛い日々が続くこともあるでしょう。思うようにいかず、気持ちが落ち込むこともあるでしょう。そんなときこそ、自分を成長させるときです。決して、困難から目を背けないでください。自分のために立ち向かってください。努力していれば、人が助けてくれます。必ず明るい光が待っています。皆さんの前には、常に希望があります。希望には、力があります。皆さん一人一人が、どんな人生を歩んでいくのか、楽しみにしています。